

2024年3月1日

豊橋医療センター院外処方箋における問い合わせ簡素化プロトコル

1. 事前準備

- ① 病院より、処方箋における問い合わせ簡素化プロトコルについての説明を受け、「豊橋医療センター院外処方箋における問い合わせ簡素化プロトコル合意書」を取り交わしてください。
- ② 変更内容を記載しFAXにて送信する方法を確認してください。

2. 手順

「豊橋医療センター院外処方箋における問い合わせ簡素化プロトコル合意書」を取り交わした保険薬局において本プロトコルを実施する際は、下記第3項の問い合わせ不要の項目1)から12)に該当するものについて以下の手順をとってください。

- ① 患者に十分な説明を行い、同意を得てください。特に金額や服用方法の変更が発生する場合については十分に説明の上、同意を得てください。
- ② 問い合わせを簡素化し、処方内容を変更して処方箋調剤を実施してください。
- ③ 処方箋調剤後、処方箋の変更内容について、その日のうちに指定の書式にて「豊橋医療センター薬剤部へ FAX にて報告してください。ただし、一般名処方に基づいて調剤した場合の情報提供書、後発医薬品の変更(先発→後発、後発→後発)の報告書については、報告不要です。

3. 問い合わせの不要の項目(ただし、麻薬・抗腫瘍剤は除く)

1) 成分名が同一の銘柄変更(ただし変更不可の処方除く)

例1: フォサマック錠 35mg → ボナロン錠 35mg (先発→先発)

例2: ロキソプロフェン錠 60mg「EMEC」 → ロキソニン錠60mg(後発→先発)

先発品間での変更、後発品から先発品への変更も可能です。ただし、生物学的製剤については対象外です。

2) 剤形の変更(薬剤の安定性や患者の利便性が同等もしくは向上する変更に限る)

例1: アムロジン錠5mg → アムロジンOD錠5mg

例2: タケプロン OD 錠 30 → タケプロンカプセル 30

例3: (粉碎)アスベリン錠 10mg 2錠 → アスベリン散 10% 0.2g

例 4: カロナール細粒 20% 2g → カロナール錠 200 mg 2 錠

用法用量が変わらない場合のみ変更可能です。薬価が高くなる場合も可ですが、必ず患者に同意を得てください。薬剤の安定性や溶解性や体内動態を把握し、患者の利便性が同等もしくは向上することを確認してください。ただし、外用薬の変更は不可とします。

3) 別規格製剤がある場合の薬剤規格の変更(薬剤の安定性や患者の利便性が同等もしくは向上する変更に限る)

例: アーチスト錠 1.25mg 1 回 2 錠 → アーチスト錠 2.5mg 1 回 1 錠

用法用量が変わらない場合、適応外にならない場合のみ可能です。薬価が高くなる場合も可ですが、必ず患者さんに同意を得てください。薬剤の安定性や溶解性や体内動態を確認し、患者の利便性が同等もしくは向上することを確認してください。ただし、外用薬の変更は不可とします。

4) 錠剤の半割や粉碎、散剤の混合、あるいはその逆

(薬剤の安定性や患者の利便性が同等もしくは向上する変更に限る)

逆の場合の例

(粉碎)チラーヂンS 50 μ g 0.25 錠 → チラーヂンS 12.5 μ g 1 錠

用法用量が変わらない場合のみ可能です。薬価が高くなる場合も可ですが、必ず患者さんに同意を得てください。薬剤の安定性や溶解性や体内動態を把握し、同等の治療効果ならびに患者の利便性が同等もしくは向上する場合に実施してください。ただし、外用薬の変更は不可とします。

5) 「患者の希望」あるいは「アドヒアランス不良で一包化によりその向上が見込まれる」の理由により実施する一包化(コメントに「一包化不可」の場合を除く)

薬剤の安定性のデータに留意してください。

6) 湿布薬や軟膏等の外用剤の包装、規格の変更(合計処方量が変わらない場合)

例 1: モーラスパップ 30mg (7 枚入り)×6 袋 →

モーラスパップ 30mg (6 枚入り)×7 袋

例 2: リンデロンVG軟膏 (5g) 2 本 → リンデロンVG軟膏 (10g) 1 本

本来は、薬剤師の裁量にて実施できる項目ですが、変更後、医師と患者の間でこの変更によるトラブルが生じないために、調剤後に、必ず変更内容を所定の書式にてFAX送信にて報告してください。

7) 患者の希望があった場合の湿布薬の剤形、大きさの変更(成分が同じものに限る 添付文書上の用法が異なる場合は要問合せ)

例 1:ロキソニンパップ 100mg → ロキソニンテープ 100mg

例 2:モーラステープ 20 mg → モーラステープ L40mg

例 3:(変更不可)モーラスパップ 30 mg 1日2回 1回1枚 →

モーラステープ L40mg 1日1回 1回1枚

8) 薬剤師が残薬確認時に処方薬の残薬を把握したため、投与日数を調整(短縮)して調剤すること(外用剤の本数の変更も含む)

例:オルメサルタン錠 20mg 30 日分 → 26 日分 (4 日分残薬があるため)

例:ラミシールクリーム 1% 30g →ラミシールクリーム 1%20g(1本残薬があるため)

残薬が多い場合は、残薬の背景や理由等を確認し、変更内容と併せて報告をお願いします。

9) ビスホスホネート製剤の週1回あるいは月1回製剤、DPP-4 阻害薬の週 1 回製剤が、連日投与の他の処方薬と同一の日数で処方されている場合の処方日数の適正化(処方間違いが明確な場合)

例:(他の処方薬が 14 日分処方の時)

アクトネル錠 17.5mg(週1回製剤) 1 錠 分 1 起床時 14 日分 → 2 日分

10)「1 日おきに服用」と指示された処方薬が、連日投与の他の処方薬と同一の日数で処方されている場合の処方日数の適正化(処方間違いが明確な場合)

例:(他の処方薬が 30 日分処方の時)

リピトール錠5mg 1 錠 分 1 朝食後 1 日おき 30 日分 → 15 日分

11) 外用剤の用法(適用回数、適用部位、適用タイミング等)、ビスホスホネート製剤の週1回あるいは月1回製剤の服用日が未記載又は医師の指示通りの場合に患者に確認した用法の追記(医師から患者に口頭で指示がされおり、患者から聞き取れた用法が明確な場合)

例 1:ケトプロフェンテープ 40mg 5 袋 1日1回 → 1日1回 1回1枚 腰

例 2:リンデロンVG軟膏(5g) 2 本 患部に塗布 → 1日2回 手に塗布

例 3:アクトネル錠 17.5mg(週1回製剤) 1 錠 分 1 起床時 2 日分 → 毎週金曜日

12) 患者の希望があった場合の経腸栄養剤等のフレーバーの変更

例 1:エンシュア・リキッド(コーヒー味) → エンシュア・リキッド(バニラ味)

例 2:カリメート経口液 20%(オレンジフレーバー) →

カリメート経口液 20%(アップルフレーバー)

4. 各種問い合わせ窓口・受付時間

① 問い合わせ簡素化プロトコルについて

受付時間 平日 8 時 30 分～17 時 15 分

薬剤部 TEL:0532-62-0301(代) FAX:0532-62-3352

5. 注意点

- ・必ず患者の同意を得たうえで実施してください。
- ・上記に該当しない変更を含む問い合わせは、必ず医師へ電話にて確認を行ってください。